

製品名: PKD2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16209**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	96kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKD2
別名	PRKD2; PKD2; HSPC187; Serine/threonine-protein kinase D2; nPKC-D2
遺伝子 ID	25865.0
SwissProt ID	Q9BZL6
免疫原	抗血清はヒト PKD2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 829-878

背景

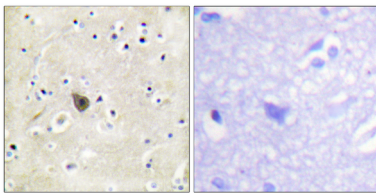
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼのタンパク質キナーゼ D (PKD) ファミリーに属する。胃癌細胞において、このキナーゼはホルポールエステルだけでなく、コレシストキニン B 受容体 (CCKBR) を介して

ガストリンによっても活性化される。トランスゴルジ体 (TGN) においてジアシルグリセロール (DAG) に結合し、TGN からの基底外側膜タンパク質の排出を制御する可能性がある。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、酵素制御: ジアシルグリセロールおよびホルボールエステルによって活性化される。、機能: カルシウム非依存性、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的タンパク質キナーゼ。、PTM: 自己リン酸化。ホルボールエステルは自己リン酸化を刺激する。Ser-876 のリン酸化はキナーゼの活性化状態と相関する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。PKD サブファミリー。、類似性: 1 つの PH ドメインを含む。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、類似性: 2 つのホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを含む。、組織特異性: 広く発現している。、

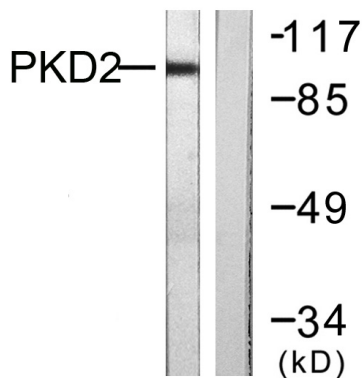
研究分野

微小管制御; アクチンダイナミクスの制御; 幹細胞経路; インスリン受容体; B 細胞受容体; AMPK

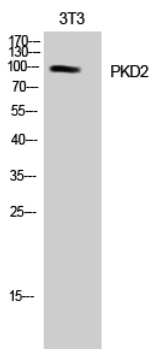
画像データ



PKD2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートを PMA 250 ng/ml 15 分処理し、PKD2 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



PKD2 ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析